

国連ウィーン事務局（UNOV）
国連宇宙部宇宙応用課長
土井隆雄さん



国連宇宙部展示場に飾られているアポロ15号の月の石と

国連宇宙部は、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS: Committee on the Peaceful Uses of Outer Space）の事務局として50年以上にわたり活動をしてきました。私が仕事をしている宇宙応用課は、「宇宙科学技術を使って世界の人々の生活を向上させる、世界平和に貢献する」ということを大きな目標としています。その中でも大きく3つの仕事があります。

1つ目は教育啓蒙活動です。これは宇宙の科学技術を若い世代に知ってもらう活動です。国連の地域事務所（Regional Centres）がインド、アフリカのモロッコとナイジェリア、そしてメキシコとブラジルにあります。そこでは大学院教育レベルの宇宙科学技術の講義が行われています。宇宙科学、衛星通信、衛星気象、リモートセンシング、航法測位衛星システムなどのいろいろなカリキュラムがあります。

2つ目の活動は、世界各地で宇宙科学技術に関するワークショップやセミナーを開催することです。世界中から集まった宇宙科学技術の専門家とその国の様々な専門家たちの意見交換を通じて宇宙科学技術への理解を深めてもらうことを目的としています。

3つ目の活動は、長期的な国際協力の促進を目的としたイニシアチブです。現在、宇宙科学、基礎宇宙技術、有人宇宙技術の3つのイニシアチブがあります。私が特に力を入れているのが、有人宇宙技術イニシアチブ（HSTI: Human Space Technology Initiative）です。世界中の人々が協力して宇宙進出ができるようになることを目指しています。

人類の宇宙活動に貢献したいという想いと宇宙での体験が、国連宇宙部の仕事に導いてくれました。今、人類が宇宙に進出していく活動の中で何ができるか。宇宙に行く努力をすることによって新しい科学技術の創造ができ、その新しい科学技術を使うことによって、地球上の人々の生活の向上や環境問題などの解決につなげたいと思っています。

宇宙をめざす大きな夢は、人類が宇宙に展開することによって、そこに新しい町ができ、新しい文化が生まれることです。月や火星に人が住み始めると、新しい社会や環境に合わせたスポーツや芸術が生まれることでしょう。新しい文化は新しい科学技術と融合して、新しい文明を創造するに違いありません。世界中の人々が自由に宇宙に行けるように、そのためには何をすれば良いかを考え、大きな夢の実現に向かって努力したいと思います。